

第1問

自然環境・自然災害と人間生活

▶ 出題のねらい

地形の成因，気候の成因について，論理的に考えることができるか試した。また，人間生活や災害について，背景にある地形，気候，河川，土壌などの自然環境と関連づけて理解しているか確かめた。

▶ 解説

問1 **1** 正解は①。

Aはア，Bは力。エーゲ海のような多くの島々がみられる海を**多島海**という。一般に多島海は，陸上で侵食を受けて起伏の激しい山地となった場所が，海面の上昇または土地の沈降によって沈水し(=海水に浸かり)，山々の頂上付近が海面から突き出て島になることによって形成される。日本の瀬戸内海，松島湾，九十九島一帯も典型的な多島海なので地図帳で確認しておくとい。

ところで，**バンク(浅堆)**とは，大陸棚の中でも周囲より高く，特に浅くなっている部分を指す。これが，海面の低下または土地の隆起により離水すれば島になりうるが，多島海にはならない。

問2 **2** 正解は⑤。

Dはス。亜熱帯高压帯(中緯度高压帯)と極高压帯の間の相対的に気圧の低い緯度帯を，**亜寒帯低圧帯**という。亜寒帯低圧帯は，亜熱帯高压帯から吹き出す暖かい偏西風と，極高压帯から吹き出す冷たい極偏東風がぶつかるため，暖気が寒気の上に乗ろうとして，上昇気流が生じる場所である。そのため雨雲が形成されやすく，降水量が多い。亜寒帯低圧帯は，亜熱帯高压帯の勢力が強くなる夏には，亜熱帯高压帯に押されて高緯度側にずれ，イルクーツクがある亜寒帯(Df，Dw)などにおいて降水量を増やす。一方，極高压帯の勢力が強くなる冬には，極高压帯に押されて低緯度側にずれ，地中海性気候区(Cs)などにおいて降水量を増やす。

Eはサ。ベルゲンのあるノルウェーの西岸は，恒常風(年間通して吹く風)である偏西風が，スカンディナヴィア山脈を越えようとして上昇気流となる場所である。そのため雨雲が形成されやすく，年間通して降水量が多い。

Fはシ。赤道付近は空気が暖められて上昇気流となり(空気が上空へ流れて薄くなり)，気圧が低くなる。そこへ南北の亜熱帯高压帯から貿易風が収束してくる(集まるように吹き込んでくる)ため，**熱帯収束帯**と呼ばれる。上昇気流が卓越する熱帯

収束帯は雨雲が発達しやすく，降水量が多い。熱帯収束帯は，7月頃には北側にずれ，北半球の弱い乾季のある熱帯雨林気候区(Am)，サバナ気候区(Aw)，サバナ気候区の北に沿うステップ気候区(BS)に雨季をもたらす。ワガドゥグーは，サバナ気候区の北に沿うステップ気候区に位置する。また，熱帯収束帯は，1月頃には南側にずれ，南半球の弱い乾季のある熱帯雨林気候区，サバナ気候区，サバナ気候区の南に沿うステップ気候区に雨季をもたらす。

問3 **3** 正解は①，**4** 正解は⑤。

Jはナイル川であり，該当する文は①。1970年に巨大な**アスワンハイダム**が完成し，洪水は減ったが，上流から下流へ運ばれる土砂が激減した。そのため，洪水のたびに下流域の農地に供給されてきた肥沃な土壌が，供給されなくなってしまった。また，ナイル川の河口付近には巨大な**円弧状三角州**が発達しているが，土砂供給の減少によって海岸線の侵食が進むようになってしまった。

Lは黄河(ホワンホー)であり，該当する文は⑤。風が運んだ砂が堆積した土壌を**レス**という。中国北部，ヨーロッパ中部～東部，北アメリカなどに広く分布し，各地で肥沃な土壌の母材となっている。中国の黄土(ホワンツー)高原は，ゴビ砂漠やタクラマカン砂漠などから飛来した砂が形成したレスが厚く堆積しているため，そこを侵食しながら流れる黄河は土砂の運搬量が多く，黄色く濁っている。1960年には中流に巨大な三門峡(サンメンシヤ)ダムが完成したが，すぐに溜まる大量の土砂に悩まされてきた。

Kはオビ川であり，該当する文は④。春に緯度の低い上流域から雪解けが進み，川に雪解け水が集まるが，その頃，緯度の高い下流ではまだ結氷したままである。そのため，水が北極海に排出されずに溢れてしまい，しばしば大規模な洪水となる。エニセイ川，レナ川も同様の理由で洪水が多い。

Mはミシシippi川であり，該当する文は③。ロッキー山脈やアパラチア山脈を侵食しながら流れる多くの支流から，大量の土砂が流れ込んでいる。そのため河口付近では，自然堤防(河川に沿って土砂が堆積した微高地)が枝分かれしながら沖の方へ伸び，**鳥趾状三角州**を形成している。中流域の中央平原は，東西方向に連なる山地がないため，北方の寒気と南方の暖気が接して積乱雲が発達しやすく，竜巻(トルネード)が頻発する。

Nはアマゾン川であり，該当する文は②。流域

の大部分が湿潤地帯であり、水量が豊富であることや、広大な低平地が広がるアマゾン盆地を流れることから、かなり内陸まで外洋船の通航が可能である。そのため、河口から3,000 km以上上流に人口が40万人を超える河港都市イキトス(ペルー)がある。また、河口から約1,500 km上流には、人口が200万人を超える河港都市マナオス(ブラジル)がある。

問4 **5** 正解は④。

タは正しい。都市の地表面はアスファルトの道路やコンクリートの建物で覆われており、雨水が地中に浸透しにくい。そのため、大量の雨水が側溝や下水道に短時間で流れ込み、溢れやすくなった。ゆえに市街地の冠水が起りやすく、地下街や地下鉄などに水が流れ込んで被害が大きくなることもある。

チは正しい。都市は、冷房などからの人工排熱が多いこと、緑地や水場が少ないこと、ビルが風の通り道をふさぐことなどから周囲より気温が高くなりやすく、このような現象はヒートアイランド現象と呼ばれる。ヒートアイランド現象が生じている都市部においては上昇気流が生じやすいため、予測困難な局地的大雨(ゲリラ豪雨)を降らす積乱雲が上空に発達しやすく、都市型の水害が発生する要因となっている。

問5 **6** 正解は①。

Iはs。マはグレートアーテジアン盆地(大鑽井盆地)を示している。グレートアーテジアン盆地の地下には、下方に向かって凹型にカーブ(曲降)した地層が発達しており、上下を不透水層(水を通しにくい地層)に挟まれた透水層(水を通しやすい地層)の底部には、強い圧力を受けている地下水が溜まっている。これを被圧地下水と呼び、地上から掘り抜き井戸を掘ると地上付近まで水が上昇してくる。かつては、地下水が噴き上がる自噴井も多かったが、地下水位の低下により近年では減少傾向にある。この被圧地下水は塩分を多く含んでおり、農耕には不向きである。そのため、グレートアーテジアン盆地では家畜の飲み水として利用し、肉牛や羊の粗放的な放牧が盛んに行われている。なお、tに述べた局地的な不透水層の上に溜まった地下水は宙水と呼ばれ、日本の台地上の井戸には宙水を利用したものが多かった。

IIはv。ミはグレートディヴァイディング山脈を示している。古生代に造山運動(激しい地殻変動)を受け、その後侵食が進んでなだらかになっ

た、古期造山帯の山脈である。古生代は陸上にシダ植物が繁茂していたため、古期造山帯ではその化石である石炭が豊富に産出する。図6で、ミの山脈は一見すると高く険しいようだが、図は垂直方向に誇張されており、最高点でも1,500 m程度に過ぎないことに注意したい。なお、wは、新期造山帯の山脈の特徴を述べている。

問6 **7** 正解は④。

④誤り。石灰岩中の石灰が水に溶けて流出し、酸化鉄が豊富に残った赤い土壌はテラロッサと呼ばれ、地中海沿岸に分布する。テラロッサはかんきつ類、オリーブなどの果樹栽培に適する。レで示したブラジル高原南部に分布する土壌はテラローシャと呼ばれ、玄武岩や輝緑岩が風化した赤紫色の肥沃な土壌である。そのため、ブラジル高原南部は世界最大級のコーヒー豆の産地となった。農耕が困難ということはない。なお、テラロッサやテラローシャのような母岩の影響を強く受けた土壌は、間帯土壌と呼ばれる。

①正しい。ラのチリ海溝は、ナスカプレートと南アメリカプレートのせままる境界である。前者が後者の下に沈み込むとしており、前者から圧力を受けてたわんだ後者の縁辺が時々跳ね返って海溝型地震が起きる。大規模な津波は日本の太平洋岸にも及び、1960年のチリ地震では、日本でも三陸地方を中心に約140人の死者・行方不明者が出た。

②正しい。リはオリノコ川中流域に広がるリャノと呼ばれる草原地帯を示している。リャノは、サバナ気候区付近に発達する熱帯草原の典型例であり、長草草原と疎林からなる。

③正しい。ルのウユニ塩原は、ハイテク産業に欠かせないレアメタルであるリチウムの埋蔵量が多く、世界から注目されている。リチウムは、電気自動車、パソコン、携帯電話などに使用されるリチウムイオン電池の原料となる。

第2問 産業と経済活動

▶ 出題のねらい

農業、工業、商業などの様々な産業の立地と変化について、背景を正しく理解しているか、あるいは論理的に考えることができるか確かめた。また、各国の発電構成や輸出構成を、自然、経済、社会環境などと結びつけてとらえることができるか、商業に関する地理的な調査の方法を適切に判断することができるか試した。

▶ 解説

問 1 8 正解は②。

Aはライ麦の生産量上位 10 か国を示しており、該当する文はア。ライ麦は耐寒性があり、ポドゾルのような酸性土壌でも栽培が可能である。そのため、亜寒帯あるいは温帯の高緯度側に位置する、ドイツ、ポーランド、ロシア、ベラルーシ、デンマークなどの冷涼な国で栽培が盛んである。ライ麦が主要原料の一つとなるウォッカはアルコール度数が強く、ロシアの男性の平均寿命が短い一因になっているといわれる。

Bは落花生の生産量上位 10 か国を示しており、該当する文はウ。ピーナッツ油を得るのが主目的の油糧作物であるが、そのまま実を食べることも多い。砂漠化の深刻なサヘル(サハラ砂漠の南縁)に位置するナイジェリア北部、スーダン、チャド、セネガルなどの重要な換金作物となっているが、その導入により、ミレット(きび・あわ・ひえ)やソルガム(もろこし)などの自給用穀物の農業が脆弱になったとの指摘もある。

Cはてんさいの生産量上位 10 か国を示しており、該当する文はイ。てんさい(甜菜)は砂糖大根とも呼ばれ、砂糖を得るのが主目的の作物であるが、葉や糖液のしぼりかすは、優れた家畜飼料となる。そのため、肉牛を育てる混合農業の盛んな国・地域(フランス、ドイツ南部など)や、乳牛を育てる酪農の盛んな国・地域(ロシア、アメリカ合衆国北部、ドイツ北部など)で栽培が盛んである。

問 2 9 正解は②。

生産量は e、輸出量は f。インドとパキスタンの国名がある e を小麦の「生産量」、それらの国名がない f を、小麦の「輸出量」と判断する。これら 2 国は国内の消費人口が多いため、小麦の大量生産国であるものの、輸出する余力はほとんどなく、むしろわずかながら輸入している。

Jに該当する国は中国であり、該当する説明文はキ。中国は世界最大の小麦生産国であるが、インド・パキスタンと同じで国内の消費人口が多く、輸出に回せる小麦はあまり多くない。よって f には、中国にあたる記号 J がない。中国の最大民族は漢族であるが、漢族は牛乳や乳製品を好んで摂取する食文化を持たず、近年までそれらの消費量は少なかった。しかし、経済成長とともに牛乳の消費量が増え、内モンゴル自治区を中心に酪農が急成長した。また、乳牛だけでなく、肉用家畜の飼育も増えたため、家畜飼料となるトウモロコシ

の生産量や大豆の輸入量が急増した。

Kに該当する国はロシアであり、該当する説明文は力。ロシアでは、農業企業による大規模な小麦生産が行われ、世界最大の輸出国(2018 年)となっている。農業企業には、ソ連時代(社会主義時代)の集団農場(コルホーズ)や国营農場(ソフホーズ)を前身とするものも多く、穀物、てんさい、ひまわり種子(油糧作物)などを主に生産している。一方、野菜やじゃがいもは、ダーチャと呼ばれる菜園付き別荘などで、個人農が主に生産している。ロシアにおけるダーチャの歴史は古いが、ソ連時代に政府が国民に支給したもののや、ソ連崩壊後(市場経済の導入後)に人々が購入したものなど、様々なタイプのダーチャがある。

問 3 10 正解は③。

サは誤り。ドイツのルール地方は、ヨーロッパ有数の油田地帯ではなく、炭田地帯であった。豊富な石炭資源、ライン川とその支流のルール川の水運などを背景に、鉄鋼業を中心に各種工業が栄え、ヨーロッパ最大級の工業地帯となった。近年は、石炭の枯渇、中国など生産費の安い発展途上国の鉄鋼業の台頭により斜陽化した。石炭燃焼に伴う大気汚染に長年悩まされ、企業がそれに対応してきた地域でもあり、環境関連産業の発達がみられる。

シは正しい。駅前商店街などと呼ばれてきた日本の中小都市の中心商店街には衰退してしまったものが多い。昼間から入り口のシャッターが下りている店舗跡が多いため、シャッター街などと呼ばれることもある。多くの店舗が広い駐車場を持たず、鉄道・バスから自家用車へ主たる移動手段が変化するモータリゼーション(車社会化)に対応できなかったことがその要因である。モータリゼーション以降、大都市を除く地域では、駅周辺から郊外の幹線道路沿いに商業の中心が移った。

問 4 11 正解は⑥。

Pはニュージーランドの発電構成であり、輸出構成はツが該当する。ニュージーランドの南島はサザンアルプス山脈が連なり、地形に高低差がある。また、同山脈を越えようとする偏西風が上昇気流となるため西斜面は降水量が多く、河川の流量が多い。よって、水力発電が盛んである。また、ニュージーランドは環太平洋造山帯上に位置するため火山活動が活発であり、地熱発電も盛んである。なお、ニュージーランドのある南太平洋はフランスなどにより核実験の場とされてきたため、

ニュージーランドでは核エネルギー利用に対する否定的世論が強く、原子力発電は行われていない。輸出については、湿潤で乳牛を育てやすい北島のハミルトンの周辺などで酪農が盛んであり、酪農品が最大の輸出品となっている。また、偏西風が上昇気流となる南島のサザンアルプス山脈の西斜面は湿潤で森林が発達しており、林業が盛んである。一方、偏西風が下降気流となる東斜面は乾燥しており、牧羊が盛んである。よって、木材や肉類も主要輸出品となっている。第4位の輸出品である野菜と果実には、日本市場向けのキウイフルーツが含まれる。

Qはスウェーデンの発電構成であり、輸出構成はチが該当する。スウェーデンは火力発電に必要な化石燃料の産出量が乏しい。また、西部が古期造山帯のスカンディナヴィア山脈、東部が安定陸塊のバルト楕状地に属し、新期造山帯のニュージーランドやメキシコと違って地震が少ないため、原子力発電所の設置に向く。よって、原子力発電の割合が高い。その他、スカンディナヴィア山脈の東斜面を利用した水力発電、偏西風を利用した風力発電、豊富な森林資源を活用した木質のバイオ燃料による発電が盛んである。輸出については、針葉樹が原料となる紙と板紙が第4位の輸出品となっていることが特徴的である。

Rはメキシコの発電構成であり、輸出構成はタが該当する。メキシコは産油国であるため、火力発電の割合が圧倒的に大きい。国土の大半が環太平洋造山帯上に位置し、火山活動が活発であるため地熱発電もみられるが、人口と工業の規模が大きく、大量の電力が必要となるため、スウェーデンやニュージーランドに比べ再生可能エネルギー(水力、風力、地熱、バイオ燃料など)の割合は小さい。輸出については、国の北部に米国向けの製品を製造する電気機械工業、自動車工業が集積しているため、機械類、自動車の割合が高くなっている。メキシコは米国より人件費が安いと、米国企業や日本企業などが、米国市場をターゲットとする組み立て工場を多数進出させた。

問5 12 正解は③。

③誤り。ハイテク産業等に不可欠な資源ながら、もともと埋蔵量が少なく、技術面・費用面で単体として取り出すのが難しいなどの理由で、希少価値が高くなっている金属資源をレアメタルと呼ぶ。たしかに中国では、レアメタルのうちタングステンやレアアース(希土類)、ガリウムなどについて、世界生産量のうち極めて大きなシェアを

占めている。しかし、「都市鉱山」とは都市内に実在する鉱床のことではなく、廃棄物に含まれる資源を比喩的に称したものであり、回収と再生によるリサイクルが期待されている。

①正しい。経済技術開発区は、ハイテク企業・輸出企業の誘致を目的に設置された工業団地であり、誘致企業に税制優遇などが与えられる。1979年以降に設置された経済特区は外国企業への開放が目的とされたが、経済技術開発区は、外国企業だけでなく、中国の国内企業にも開放された。スーチョワン(四川)盆地においては、1993年に盆地東部の巨大都市チョンチン(重慶)に、2000年に盆地北西部のチョントウ(成都=スーチョワン省の省都)の郊外に経済技術開発区が設置され、ハイテク企業の集積が促された。

②正しい。中国の驚異的な工業化と経済発展は東部の沿海地域から進んだ。そのため、開発の始まる時期が遅かった内陸のスーチョワン(四川)盆地は、東部に比べ人件費などの生産コストが安く、豊富な組み立て労働力を必要とするパソコン工場の立地に適している。

④正しい。軽薄短小で高価なパソコンとその部品は、大型船舶よりも航空機での輸送に適している。そのため、内陸であることが工場の立地にとって不利な条件にはならない。

問6 13 正解は①。

Tはマ。商圈すなわち顧客が住んでいる地域の範囲は、店舗の入り口などでアンケート調査を行い、来店した客に住所を尋ねることで把握できる。その際、調査を行う店舗に研究と調査の意図を丁寧に説明し、許可を得た上で行うことが必要である。実際に調査を行うと、食品スーパーマーケットの商圈は店舗の近隣、百貨店の商圈は周辺市区町村を含む広い範囲に広がっていることが判明するであろう。なお、小売店の店舗の周辺を撮影した空中写真を入手しても、その店舗を訪れる顧客の居住地域はわからない。

Uはヤ。住所も記載された職業別電話帳の最新刊と旧刊を調べれば、地方都市における飲食店の立地のおおよそその変化を把握することができる。おそらく、駅周辺の古い中心商店街の飲食店が減り、郊外の幹線道路沿いにファミレスチェーンの店舗などが増えたことが確認できるだろう。なお、新旧の地形図を見比べれば、建物の密集地の変化などは確認できるが、それが商業施設であるか否か、さらには飲食店であるか否かは確認できない。

第3問

村落・都市と生活文化

▶ 出題のねらい

前半は村落・都市の分野から出題し、村落の立地と形態、都市地理分野の用語の意味、アメリカ合衆国の都市人口の変化の背景について正しく理解しているか確かめた。後半は生活文化の分野から出題し、キリスト教の宗派の分布とその要因、世界の国々の食生活と平均寿命、モンゴル周辺と北極海周辺の民族の伝統的生活などについて論理的に考えることができるか確かめた。

▶ 解説

問1 14 正解は①。

Aは北アメリカのプレーリーを示しており、該当する文はア。もともとプレーリーは、乾燥帯のステップ気候区と温帯・亜寒帯との境界付近に発達していた草の量の豊富な草原地帯であった。そのため、枯れ草の腐植を豊富に含む肥沃な黒土(プレーリー土)が分布し、ヨーロッパ系の人々(白人)によって開拓が進められた。その際、土地を碁盤目状の道路で地割りして開拓者に割り当てるタウンシップ制が採用されたため、1つの正方形の土地の中に1つの家が建つ、散村(家屋が疎らに建つ村落)が形成された。なお、この開拓により、多くの先住民族が住み慣れた土地を奪われた。

Bはドイツとポーランドの周辺を示しており、該当する文はイ。ドイツとポーランドの森林地帯では、農地の開拓のためにまずは道路が通され、それに沿って開拓者の暮らす家屋が列状に建てられ、路村が形成された。そして、家々の背後には、短冊状の細長い耕地が割り当てられた。このような村落は林地村と呼ばれる。日本の新田集落にも似た形態のことが多い。

Cはオマーンの周辺を示しており、該当する文はウ。乾燥地域には、扇状地の湧水帯などから低地まで水を導く地下水路が多くみられ、その人工のオアシスの周辺に塊村(家屋がかたまりのように密集している村落)が発達している。水路を地上ではなく地下に敷設しているのは、蒸発を防ぐためである。アラビア半島や北アフリカにはナツメヤシ畑を持つ村落が多く、デーツと呼ばれる実が重要な糖質源となる。乾燥地域には、乾いた高温の大気を屋内に入れぬよう、窓を小さくしているものが多い。また、雨・雪の量が少ないため屋根を傾斜させる必要がなく、平らにしている家が

多い(オマーン北部のニズワの都市景観の画像をインターネットで探し、見てみよう)。ところで、地下水路の呼称は地域によって異なっており、オマーンではファラジ、北アフリカではフォガラ、イランではカナート、アフガニスタンではカレーズと呼ばれる。

問2 15 正解は③。

③正しい。大都市の中心部には、行政機関、高級専門店街、百貨店、高級ホテルなど、遠方からも人を集める強い中心地機能が集積しているが、規模の大きな都市の場合、都心から離れた場所に、都心の中心地機能の一部を分担する地域・地区が発達することがある。そのような場所を副都心という。日本の大都市の場合は、都心と郊外を結ぶ鉄道のターミナル駅(始点・終点となる駅)周辺に副都心が多く、東京の新宿、渋谷、池袋が好例である。

①誤り。インフォーマルセクターとは、露天商、自転車タクシー、廃品拾い、靴磨きなどの、統計に載らないような非公式な経済活動を指す。十分な就業機会がないのに、農村から大量に人々が流入して人口が肥大化した発展途上国の大都市に多く、先進国の都市には少ない。インフォーマルセクターに従事する人々は多くが貧困層に属し、ホームレスやストリートチルドレン(大人の庇護を受けられず、路上で暮らす子供たち)である者も多い。インフォーマルセクターの増加は、都市成長にとってマイナスの因子となる。

②誤り。中心業務地区(CBD: central business district)とは、大都市内部に形成される工業の集積地区を指す言葉ではない。都心の中でも、多国籍企業の本社・支社や国際組織・全国組織の本部などの中枢管理機能が特に多く集中している地区を指す言葉である。東京の丸の内、大手町、大阪の堂島、中之島、名古屋の栄、ロンドンのシティ、ニューヨークのマンハッタン島のミッドタウン、シャンハイのプートン新区などがCBDの代表例である。

④誤り。メガロポリスとは、複数の大都市とその周辺の中小都市が、交通網や通信網で密に結びついた带状の都市化地帯を指す言葉であり、都市の市街地が接続している必要はない。複数都市の市街地が拡大して接続したものはコナーベーションと呼ぶ。もともとはアメリカ東海岸の都市化地帯(ボストン・ニューヨーク・フィラデルフィア・ボルティモア・ワシントンD.C.など)を指す固有名詞であったが、現在は普通名詞のように使

われ、日本の東海道メガロポリス(東京・横浜・静岡・浜松・名古屋・京都・大阪・神戸など)、ヨーロッパの青いバナナ(ロンドン・ロッテルダム・ブリュッセル・フランクフルト・ストラスブール・チューリヒ・ミラノなど)が例としてよく挙げられる。

問3 16 正解は⑥。

カはダラスについて述べており、該当するグラフはG。ダラスの周辺はシリコンプレーンと呼ばれ(プレーンは「平原」の意)、エレクトロニクス部品の世界的メーカーであるテキサス・インスツルメンツの本社が置かれるなど、先端技術産業(ハイテク産業)が集積している。また、ダラス都市圏のフォートワースにはロックード社の主力工場があり、航空機産業も盛んである。アメリカ合衆国の北緯37度以南の地域はサンベルトと呼ばれ、北部に比べ工業化が遅く地価が安かったことなどから、1970年代以降、ハイテク企業の進出が急速に増えた。そのため、工業化と並行して人口が急増した都市も多く、ダラスはその典型例である。シリコンデザート(デザートは「砂漠」の意)のフェニックスなども同様である。

キはニューヨークについて述べており、該当するグラフはF。多国籍企業などに巨額な融資・投資を行う金融機関(銀行、投資会社、証券会社など)が集積するビジネス地区を国際金融センターという。ニューヨーク証券取引所のあるマンハッタン島南部のウォール街は、ロンドンのシティと並ぶ重要な国際金融センターであり、世界経済に極めて強い影響力を持つ。マンハッタン島の北部には、家賃の下落したビルに黒人(アフリカ系住民)の貧困層が移り住んでその集住地区となったハーレム地区があり、インナーシティ問題による生活環境と治安の悪化などに悩まされてきた。一方でハーレム地区は、黒人への人種差別的撤廃を訴える公民権運動の中心地となったほか、ジャズなどの黒人文化(ブラックカルチャー)の発信地にもなってきた。現在、ニューヨークでは、ハーレム地区、ソーホー地区など複数の地区で、都市再開発によって、新しい商業施設や高層マンションが建設されたことにより、若年層を中心とした中・高所得者層が流入するジェントリフィケーションが進んでおり、1970年代に低下傾向をみせた人口が、1980年代以降は増加に転じた。

クはデトロイトについて述べており、該当するグラフはE。デトロイトは、ビッグ3と呼ばれた米国の三大自動車メーカー、すなわち、フォード、

ゼネラルモーターズ、クライスラーの本拠地であった。これらの企業は、工場の組み立て労働者として多くの黒人(アフリカ系住民)を雇用してきた。しかし、日本からの安価で性能・燃費の良い自動車の輸入が増えて経営難となり、1970年代から1980年代にかけては雇用が縮小し、人口が減少した。1990年代には、日本の自動車メーカーが米国現地生産と米国現地雇用を増やすよう努めたため、人口が回復傾向となったが、2000年代以降は、人件費の安いメキシコへの生産拠点の流出もあり、再び雇用が縮小して人口が減少した。デトロイトのある五大湖周辺の重工業地帯には工業の斜陽化、人口流出などに悩まされる都市も多く、ラストベルトと呼ばれる(ラストは「錆び付いた」の意。スノーベルト、フロストベルトとも呼ばれる)。

問4 17 正解は③。

③正しい。世界で積極的に植民地化を行ったスペイン、ポルトガル、フランスはカトリック、イギリスはプロテスタントの信者が多い国である。そのため、カトリックとプロテスタントの信仰は世界中に広まったが、正教の信者が多いギリシャ、ルーマニア、ロシアなどのヨーロッパ東部の国々は、ヨーロッパの外に植民地を設けようとしなかった。そのため正教の信者の大半は、ヨーロッパに暮らしている。

①誤り。カトリックの信者が中南アメリカに多いのは、大部分がカトリックの布教に熱心なスペインとポルトガルの植民地になったからである。プロテスタントの割合が大きいアメリカ合衆国との交流は、中南アメリカの宗教構成にはほとんど関係していない。逆に中南アメリカからの大量の移民は、アメリカ合衆国のカトリック信者数を増やしている。

②誤り。インドネシア国民の大半が信仰するのはイスラームである。カトリックではない。アジアでカトリックの信者が最も多い国は、旧スペイン領のフィリピンである。ほかに旧ポルトガル領の東ティモールもカトリックの割合が高い。

④誤り。プロテスタントの信者がアフリカに多いのは、ナイジェリア、ケニア、南アフリカ共和国などがイギリス領になったからである。アフリカ北部と西部を広く植民地化したフランスはカトリックの信者が多く、プロテスタントの布教とはあまり関係がない。また、アフリカの旧フランス領には、フランスによる植民地化の前に伝播したイスラームをそのまま信仰している人々が多い。

問5 18 正解は②。

日本はK。魚、野菜、海藻、きのこなど低カロリーの食材を用いた料理が多く、先進国としては1人当たり供給熱量が少ない。また、そのような食事は生活習慣病の予防にもなるため、医療水準の高さとともに、平均寿命が長い要因の一つとなっている。

ブラジルはL、イタリアはM。両国とも肉類と油脂の消費量が多いヨーロッパ型の食生活であるため、1人当たり供給熱量が多い。一方、両国の平均寿命には差があり、先進国で医療水準の高いイタリアは80歳代であり、十分な医療を受けられない貧困層が厚いブラジルは70歳代である。

ナイジェリアはJ。所得水準の低い発展途上国であるため1人当たり供給熱量が少ない。また、医療水準が低く、衛生状態の悪いスラムや貧しい農村に暮らす人々も多いため、平均寿命が短い。

問6 19 正解は②。

サはs。カナダのイヌイットが狩猟の対象とし、フィンランドのサーミやロシアのネネツ人が家畜化して遊牧に用いてきたトナカイは、主に北極海周辺のツンドラ気候区(ET)に生息する。ツンドラ気候区は植生が乏しいが、夏には、コケ類や、菌類と藻類が共生して形成する地衣類が育つ。トナカイは、冬も雪をかき分けてそれらを食えることができるため、寒冷なツンドラ地帯で生きていくことができる。なお、tに挙げた落葉広葉樹は、トナカイの主な生息域においては分布し難い。

シはy。モンゴルの遊牧民は、羊、ヤギ、牛、馬、ラクダなどの家畜に与える水と草を求めて、古くから移動生活を営んできた。そのため、組み立てと解体の容易なテントの住居に取って暮らしてきた。移動の主目的は水と草の確保だが、北風の強まる冬季は、山地の南側や谷の奥部など、風の弱い場所もテントの設置場所となる。なお、xに述べたような移動はスイスアルプスの酪農地帯で行われ、移牧と呼ばれる。主たる家畜は暑さに弱い乳牛である。

第4問 南アジア

▶ 出題のねらい

農業分布とその背景、インドの食料増産、国家間の対立と宗教、周辺地域からの難民の受け入れ、工業の地域性、インドのICT産業の成長とヒンドゥー社会との関係など、南アジアに関する重要事項を幅広く取

り上げた。そうすることで、この地域について、必要な内容をもれなく習得できているか確かめられるようにした。

▶ 解説

問1 20 正解は⑧、21 正解は④。

ジュートの産地はC、該当する文はイ。高温多湿な低湿地であるガンジス川下流の三角州(デルタ)地帯が世界の主産地である。ジュートは、その繊維が麻袋やじゅうたんの裏地などに加工される工芸作物であり、刈り取る作業、刈り取った後に水に浸ける作業、外皮を剥がす作業、乾燥させる作業などに人手を要する。そのため、人口密度が高く、かつ人件費の安いインド東部やバングラデシュで栽培が普及した。

茶の産地はB、該当する文はア。ティータイムの習慣があり、紅茶の消費量が多いイギリスの植民地になったことで、南アジアに茶園が増えた。温暖多雨で排水良好な丘陵地が生育に適し、南アジアでは、ヒマラヤ山脈南斜面のアッサム地方や、スリランカの高原地帯が大産地となっている。

綿花の産地はA、該当する文はウ。200日以上は無霜期間と、収穫期(開花後)に乾燥する気候が栽培の必要条件となる。南アジアでは、玄武岩が風化した肥沃なレグール(黒色綿花土)の分布するデカン高原や、イギリスの植民地だった時代に灌漑網が整備された、インダス川中流域のパンジャブ地方で栽培が盛んである。

問2 22 正解は②。

緑の革命に該当する文はE。米・小麦などの穀物の高収量品種の栽培を普及させる取り組みを、緑の革命という。緑の革命によりインドの穀物自給率は劇的に改善したが、それには灌漑施設の整備や化学肥料の導入が必要であった。そのため、その資金力を持つ農家・地域と、持たない農家・地域の間の所得格差が拡大した。Fの内容は、明らかにこの事実と異なる。

白い革命に該当する文はJ。ミルクの増産とその流通網の強化により、タンパク質の供給量が不足しがちであったインドでミルクの消費量が急増した近年の変化を、白い革命という。夏に高温になるインドは、冷涼な気候を好む乳牛の飼育には向かないため、水牛が主なミルクの供給源となっている。なお、ミルクのような重量当たりの価格が安い貨物は空輸には向かず、Kは明らかな誤文である。

ピンクの革命に該当する文はN。ヒンドゥー教

徒にも、ムスリムにも、鶏肉の摂取をタブーと考える人は少ない。そのため、近年のインドでは養鶏業が急成長しており、鶏肉や鶏卵が国民の重要なタンパク源となってきた。なお、**ピンクの革命**のピンクは鶏肉の色である。ピンクの革命の語を扱っている教科書・図説資料集は少なく、この語を緑の革命や白い革命のように暗記する必要はないが、覚えておくとインドの養鶏業の成長のことが頭に入り、便利である。ところで、ヒンドゥー教徒は牛肉を食べないが、それは**M**に述べたように牛肉を穢^{けが}れていると考えてきたからではない。牛を神聖視しているからである。重要なことなので、正確に理解しておきたい。

問3 **23** 正解は④。

Pはパキスタン、**Q**はインド。ガンディーらの独立運動が実を結び、イギリス領インド帝国は植民地支配から脱却することになったが、ガンディーの思いとは裏腹に、同地域は、ヒンドゥー教徒の多いインドと、ムスリムの多いパキスタンとに、分裂することになってしまった。その際、住民の大多数がイスラームを信仰するカシミール地方が、藩王などの支配者層がヒンドゥー教徒であったことから、インドに帰属することに決まった。これにカシミールの一般住民とパキスタンが反発し、以降、インドとパキスタンは3回の印パ戦争を行っている。

Sはパキスタン、**T**はインド。バングラデシュの主要民族であるベンガル人は、多くがイスラームを信仰する。そのため、イギリス領インド帝国がインドとパキスタンとに分裂する際には、現在のバングラデシュにあたる地域は、一旦はパキスタンの飛び地である東パキスタンとなった。しかしながら、現在のパキスタンにあたる西パキスタンに政治的に従属する植民地のような扱いを受けたため独立志向が高まり、1971年にインドの支援を受けて独立を果たした。このときのインドとパキスタンの衝突は、第三次印パ戦争と呼ばれる。

問4 **24** 正解は⑥。

ネパールは**Z**。日本で暮らす在留外国人の数が多ことから判断する。ネパールは政治的混乱が続く、産業も未発達であるため、留学や特定技能の在留資格で、同じアジアの先進国である日本を目指してやって来る人が多い。近年、本格的なカレーやナンを出すインド料理店が全国的に増えたが、実際に働いているのはネパール人であることが多い。

パキスタンは**Y**。パキスタンは、隣国のアフガニスタンから多くの難民を受け入れている。アフガニスタンは、1979年にソビエト連邦の侵攻を受けてから、40年以上政情不安定が続いており、多くの難民がカイバー峠を越えてパキスタンに逃れた。特に、アメリカ同時多発テロ事件が起きた2001年以降はアフガニスタンからパキスタンへ流入する難民が大幅に増え、2020年時点で、パキスタンは、シリア難民が大量に流入したトルコに次ぐ難民受け入れ国となっている。

バングラデシュは**X**。バングラデシュが受け入れている難民の大半は、**ロヒンギャ**と呼ばれる人々である。ロヒンギャは、上座部仏教の信者が多いミャンマーの西部に暮らすムスリムであり、ロヒンギャ難民は、ミャンマーで迫害を受けてバングラデシュに逃れた。現在、バングラデシュ政府は、ロヒンギャ難民を国の南部の**バシアンチャール**(Bhashan Char)島に移送する計画を実行中であるが、同島はガンジス川のデルタに形成された低平な島であり、南西季節風がヒマラヤ山脈の南斜面で上昇気流になる雨季や、ベンガル湾で高潮が発生するサイクロンの襲来時には、水害に遭う危険性が高い。

問5 **25** 正解は④。

わかりやすいものから特定していく。まず、自動車の生産台数が突出して大きい**キ**を、インドと判断する。インドは人口規模が大きく、かつ経済成長で所得水準が上昇している優良な市場である。そのため、日本や韓国の自動車メーカーが進出し、世界有数の自動車生産国となった。

次に、衣類の輸出額が最も大きい**カ**を、バングラデシュと判断する。安価な労働力を豊富に得られるバングラデシュには、日本のユニクロなど先進国資本の衣類メーカーが多数進出し、衣類の縫製工業が急成長した。また、低所得層の起業と経済的自立を支援するグラミン銀行のマイクロファイナンス(小口融資)も、国内に縫製工場を増やした。以上のことから、バングラデシュは中国に次ぐ世界第2位の衣類の輸出国に成長した(2019年)。

最後に残った**ク**が、パキスタンである。綿花の生産量が多いため、中国・インドに次ぐ世界第3位の綿糸・綿織物の生産国となっている(2014年)。ゆえに、繊維品の輸出額はバングラデシュを大きく上回る。しかしながら、人権問題など、先進国の衣類メーカーが工場の進出を検討する上でマイナスになるような国内事情を多く抱えるた

め、衣類の輸出額は大きくならない。

問6 [26] 正解は②。

aはサ。インドは長らくイギリスの植民地であったため、英語が堪能な技術者が多い。また、アメリカ合衆国とは約半日の時差があるため、一方が終業時間となる頃に、もう一方が始業時間となる。よって、インドの技術者とアメリカ合衆国のハイテク地域(シリコンヴァレーなど)の技術者は、インターネットを利用してソフトウェア開発の仕事の引き継ぎをしやすいことから、ソフトウェア産業がインドで急成長した。なお、インドは、国家が経済に強く介入する混合経済をやめ、経済の自由化を進めてから工業が著しく発展した。文シの内容は、この事実とは明らかに異なる。

bはチ。ICT産業や自動車産業などの成長は、ジャーティが世襲してきた従来の職業とは無縁の、新しい職種に就く者をどんどん増やしている。ICT産業や自動車産業などに従事する比較的所得の高い人々は新中間層と呼ばれ、身分差別とは縁遠い生活を送る者が多い。

第5問 地域調査(島根県)

▶ 出題のねらい

島根県を対象地域とする地域調査の問題を通して、統計地図や地形図を読む力が備わっているかを試した。また、日本の地形や産業経済の地域性・変化について正確に理解しているか、あるいは論理的に考えることができるか確かめた。

▶ 解説

問1 [27] 正解は③。

Aは正しい。民営事業所数が8,000を超え、島根県内では突出している県北東部の2市町村と、15～64歳人口割合が56%を超える2市町村は一致している。民営事業所が集積している地域は経済活動が活発で就業機会が多いため、15～64歳人口(生産年齢人口)の割合が高くなる。

Iは誤り。例えば、民営事業所数が2番目に多い市町村(民営事業所数が島根県内では突出して多い県北東部の2市町村のうち、西側にある市町村)は、民営事業所数が2,000を上回っているが、昼夜間人口比率は98～100となっている。東側の民営事業所数が1番多い市町村に多くの通勤者・通学者を送り出しているため、昼間人口が夜間人口より少なくなると考えられる。

Uは誤り。例えば、島根県の中央部付近に、昼夜間人口比率が県内で唯一104を上回る市町村があるが、その15～64歳人口の割合は48%未満となっている。高齢化が進み、生産年齢人口の割合が低い地域であっても、大きな学校がある、大きな工場がある、古くからの地域の中心地で官公庁や商店が多いなどの理由から、昼間人口が夜間人口を大きく上回る場合がある。

Eは正しい。昼夜間人口比率が96を大きく下回る市町村は、別の市町村に多くの通勤者・通学者を送り出している市町村である。よって、その近隣には、中心地機能が強く、通勤者・通学者が集まって昼夜間人口比率が100を上回る市町村が存在する場合が多い。

問2 [28] 正解は⑦。

力(カ)は誤り。城下町は、外敵が速やかに城へ攻め入るのを防ぐために、丁字路、直角に折れ曲がる道路、袋小路の多い独特の街路網を持つ。図3を見ると、松江城の西側の内中原町周辺には丁字路、直角に折れ曲がる道路など、城下町特有の街路が数多く残されている。このような街路網は交通渋滞を引き起こしやすく、旧城下町の経済的発展と都市開発の妨げになる場合もあるが、その街並みが作る景観は文化的価値を持つ。

キ(キ)は誤り。図3を見ると、県庁は、図2の町屋が集中していた地区ではなく、御城(松江城)の三ノ丸があった場所に建てられている。また、裁判所の地図記号は、町屋が集中していた地区ではなく、松江城の東の、侍屋敷が集中していた地区にみられる。

ク(ク)は正しい。図3を見ると、図2で寺社の集中する地区として描かれていた場所には、寺院の地図記号が多数みられる。

問3 [29] 正解は③。

サ(サ)は天井川。図5を見ると、中央付近に周囲より高い部分がみられ、その両端が特に高くなっている。この特に高い両端が斐伊川沿いに築かれた堤防であり、その間の、堤防の外側より高い部分が、堤防内に土砂が堆積して形成された天井川の河床である。もし、河岸段丘が発達しているなら、川を挟んで、川から離れるほど高くなる階段状の地形断面が描かれるはずであるが、図5を見るとそのようになってはいない。

シ(シ)はd。土砂の運搬量が多い河川は、砂が溜まって河床が高くなり、洪水が発生しやすい。そのため、河床の両側の堤防がどんどん高くされる

が、堤防を高くすると、またその内側に土砂が溜まってより河床が高くなるということが繰り返され、周囲よりも高い所を水が流れる天井川が発達していく。このような天井川が発達過程を考えると、砂鉄の採取のために、大量の砂を河川に流したと述べているdが、シに該当する文であると判断できる。砂鉄などを原料に、木炭で行われてきた日本の伝統的な製鉄は「たたら製鉄」と呼ばれ、島根県北東部(出雲国)では、たたら製鉄が古くから盛んであった。なお、本問の解答には歴史的背景の知識は不要であり、「土砂の運搬・堆積量が大きい」ことを示唆する内容を選べばよい。ダムの建設は下流への土砂供給を減らす働きを持つことから、eの文は不適当である。

問4 30 正解は⑤。

タはi(畑または牧草地)。地形図上で扇状地は、ほぼ等間隔に並ぶ同心円状の等高線で表現される。図6においては「西の原」の周辺にそのような場所がみられ、扇状地であると判断できる。扇状地の扇央は地下水位が深いため潤沢な生活用水・農業用水を得にくく、集落や水田の立地には不向きである。したがって、日本では畑、牧草地、果樹園、桑畑などに利用されてきたが、図6においては畑の地図記号が多く、この扇状地の扇央は、畑または牧草地として利用されてきたと判断できる。畑の地図記号で表現される土地には牧草地も含まれるので覚えておくこと。実際、西の原には牛の放牧場が広がっている。なお、会話文中に登場する扇端の集落は、浮布池の北の、「池ノ原」の列村である。扇端は地下水が湧き水となって地上に現れる場所であるため生活用水を得やすく、古くからの集落が多い。

チはK。西の原周辺の火山麓扇状地は、図6の東部にある扇頂(554mの標高点の付近)から、池ノ原集落のある扇端の方へ火山噴出物が流れ下って堆積し、形成されたと考えられる。よって浮布池は、火山噴出物が河川を堰きとめることで形成された堰止湖であると判断できる。もし浮布池が、扇状地に堆積している火山噴出物を噴出した火山の火口湖であるなら、扇状地の扇頂よりも高い位置にあるはずだが、明らかに浮布池は扇頂より低い位置にある。なお、この扇状地に堆積している火山噴出物を噴出した火山は、図6の範囲の東側にある三瓶山という標高1,126mの山である。

問5 31 正解は④。

④誤り。スプロール現象とは、都市化地帯が郊

外へ無秩序に広がっていき、住宅地、工場、農地の混在による騒音や悪臭、無計画な道路の敷設による交通渋滞などの諸問題が発生する現象である。主に大都市周辺で発生し、隠岐諸島のような非都市化地帯ではみられない。隠岐諸島の島後で1950年代から1960年代にかけて人口が激減したのは、雇用の少ない離島から、高度成長期を迎えて産業の集積が進む太平洋ベルトへ移住する人が増えたためである。

①、②正しい。境水道で日本海とつながる中海、大橋川で中海とつながる宍道湖は、ともに淡水と海水が混ざる汽水湖である。1960年代までの日本では、和食中心で1人当たりの米消費量が現在よりも多かったこと、人口も増加していたことなどから、米の増産が必要であると考えられていた。そのため、中海と宍道湖では、汽水を農業用水に適する淡水に変えて、干拓地に水田を造成する事業が進められることになった。しかし、食生活の多様化を背景にパン、ラーメン、パスタなどの小麦製品、バター、肉類などの畜産品の消費が増え、次第に米が余るようになると、日本は減反政策を導入するようになり、中海と宍道湖の淡水化はその必要がなくなった。よって、2000年代には淡水化事業が中止となり、淡水化のために設けられた中浦水門が撤去された。これにより、シジミ漁などの盛んな宍道湖の漁業が廃れずに維持された。

③正しい。隠岐諸島のような非都市化地帯は敵軍の攻撃を受けにくく、都会からの疎開に適していた。

問6 32 正解は①。

表1のまとめ文をヒントに、魚介類とその産地を結びつける問題である。

シジミはP。日本で最も一般的に消費されるシジミはヤマトシジミであり、ヤマトシジミは、淡水と海水が混ざる汽水域で豊富に獲れる。島根の宍道湖、青森の小川原湖と十三湖、茨城の潤沼、北海道の網走湖、鳥取の東郷池(東郷湖)は有名なシジミの産地であるが、いずれも海に近い場所に位置する汽水湖である。

ベニズワイガニはQ。対馬海流が北上するため表層は暖かいが、深層に冷たい海水がある水域、すなわち日本海が、日本におけるベニズワイガニの主産地である。表2のQを見ると、上位5道県すべてが日本海に面する。また、表2には載っていない6位の秋田、7位の石川も日本海に面する。

マアジはR。マアジは東シナ海の沖縄付近で生

まれたのち、暖流に乗って北上する。そのため、対馬海流が流れる長崎や島根、黒潮(日本海流)の流れる千葉、宮崎、愛媛などで豊富に獲れる。現在、島根県は、島根県西部沖で獲れる脂ののった「どんちっちアジ」のブランド化に力を入れている。

写真提供 ユニフォトプレス